

・基本構想策定の背景と目的

1 . 基本構想策定に当たって

1 - 1 基本構想策定の背景と目的

背 景

我が国の高齢化は、急速な勢いで進行しています。伊勢原市も例外ではなく、高齢者人口は、昭和55年に4,476人であったものが、平成15年に13,419人と約3倍に増加し、高齢者人口比率も6.5%から13.4%と着実に増加しています。この傾向は続き、高齢者人口はますます増加すると予想されます。

また一方、ノーマライゼーションの理念の普及とともに、バリアフリーが社会的な課題と認識されるようになり、平成12年には「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（以下、交通バリアフリー法）が施行されています。

さらに、伊勢原市では、市民団体がバリアフリーのために早くから様々な取り組みを実践しており、公共施設や公共交通機関でのバリアフリーの実現が求められています。

目 的

本構想はこのような背景を踏まえ、伊勢原市における公共施設等のバリアフリー化の促進を図ること、また、伊勢原駅及び愛甲石田駅を中心とした地区について高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の利便性及び安全性の向上を促進させることを目的として策定します。

1 - 2 基本構想の位置付けと内容

本構想は、「いせはら21プラン」を上位計画とする構想です。また、既に策定されている「高齢者保健福祉計画」、「障害者福祉計画」、「伊勢原市都市マスタープラン」などの関連計画との整合を図り定めます。

本構想は、バリアフリーのまちづくりの基本的方向を示す基本理念・基本方針とそれを踏まえた以下の二つの内容から構成されます。

伊勢原市における公共施設等のバリアフリーの整備方針

- ・公共施設のバリアフリー化の基本的な方針を定めます。

駅を中心とする重点整備地区における移動円滑化の整備方針

- ・交通バリアフリー法第6条の規定に定められた市町村が、国の基本方針に基づき作成することができる「移動円滑化に係る事業の重点的かつ一体的な推進に関する基本的な構想」（交通バリアフリー基本構想）です。
- ・小田急小田原線伊勢原駅及び愛甲石田駅を中心とする周辺地区を重点整備地区として位置付け、整備の方針を定めます。

図 計画の位置付けと内容

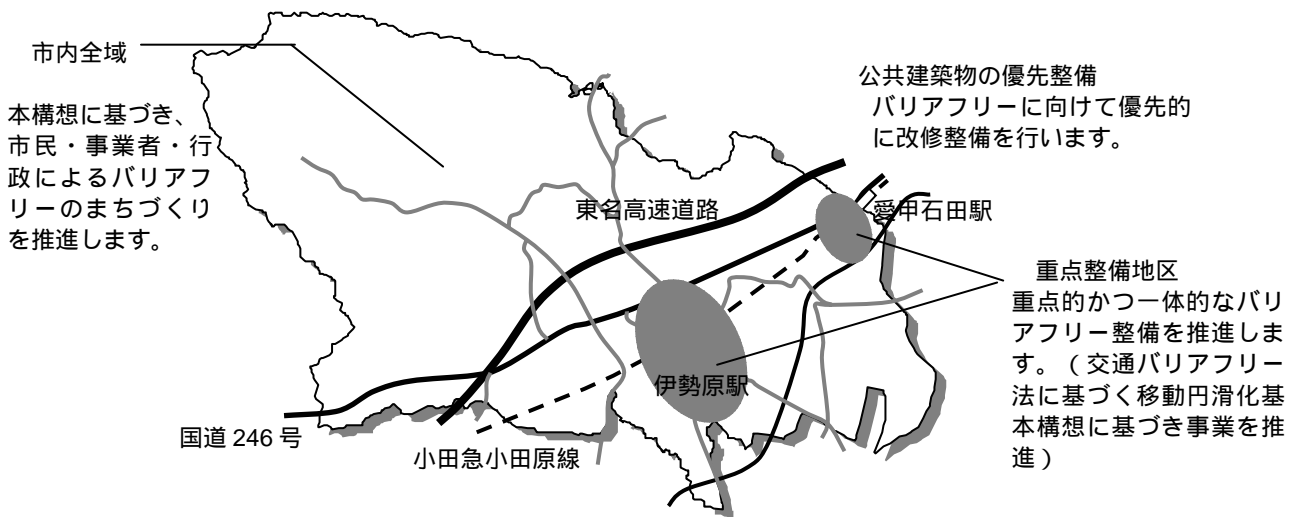
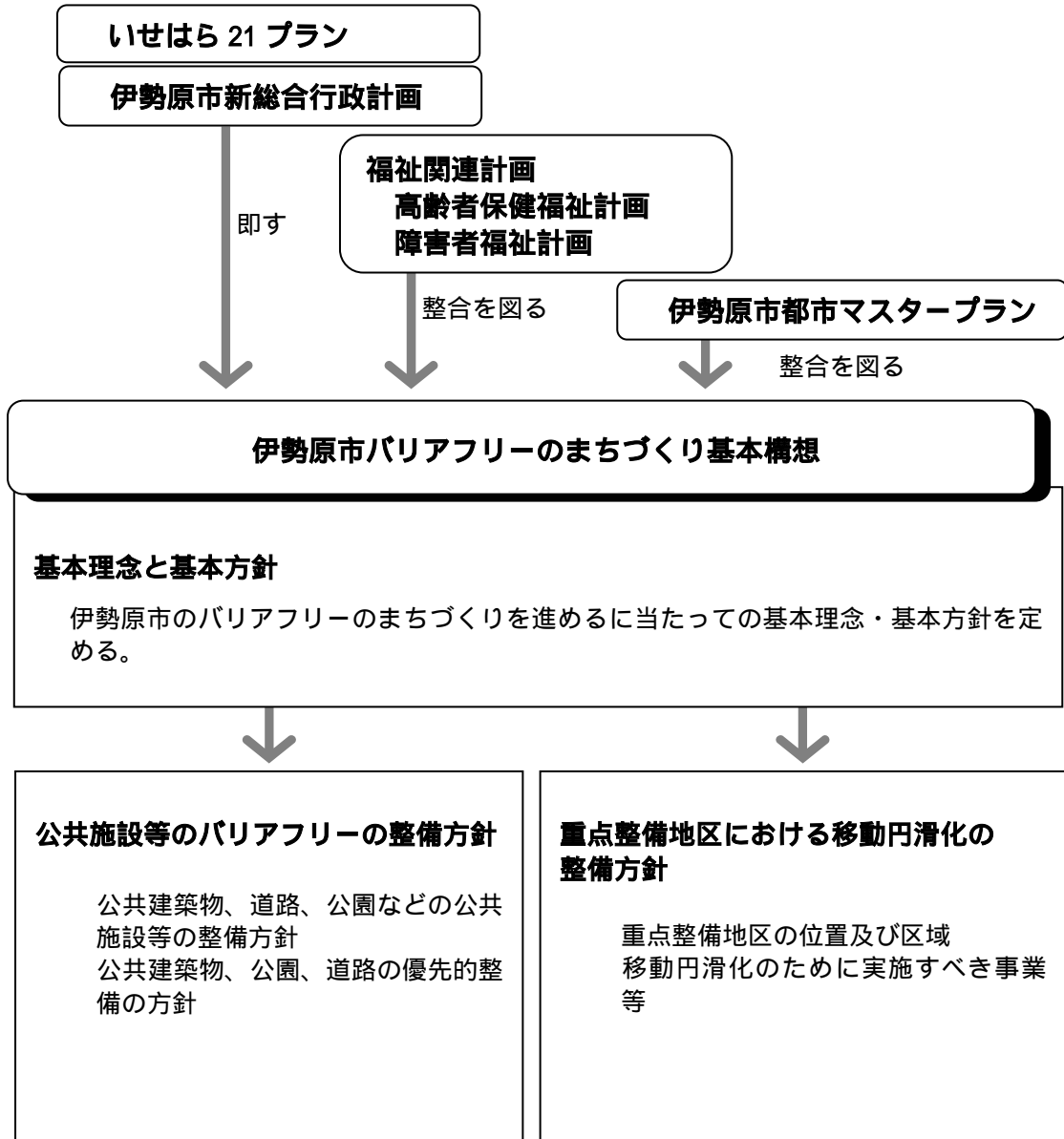
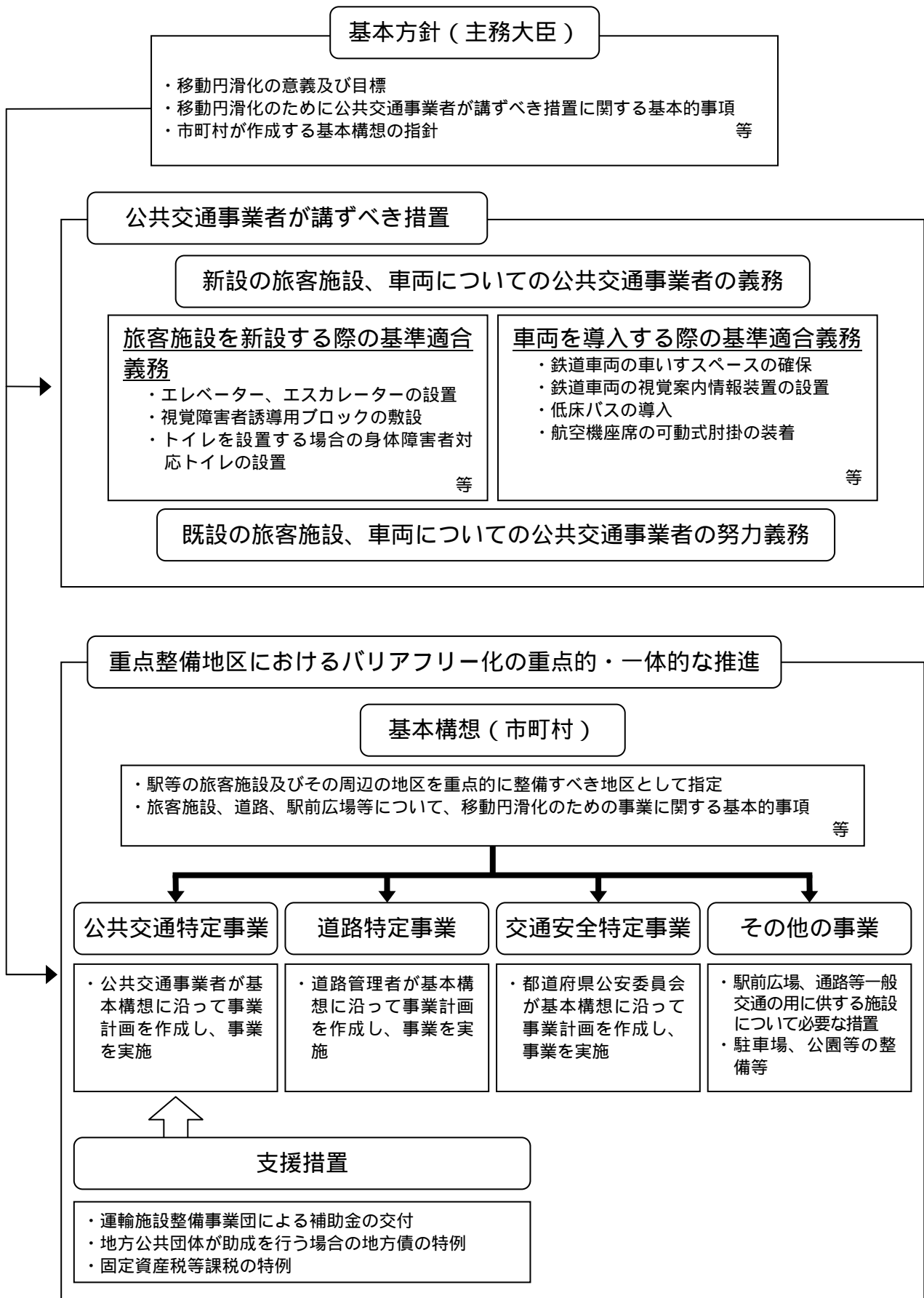


図 交通バリアフリー法のしくみ（参考）



1 - 3 基本構想策定の方法と体制

策定の方法や体制は次のとおりです。

(1) バリアフリーのまちづくり活動成果の活用

本市では市民団体によるバリアフリーのまちづくり活動事業の中で、公共施設や道路の点検調査が行われています。本構想では、この調査成果を基礎的資料として活用しています。

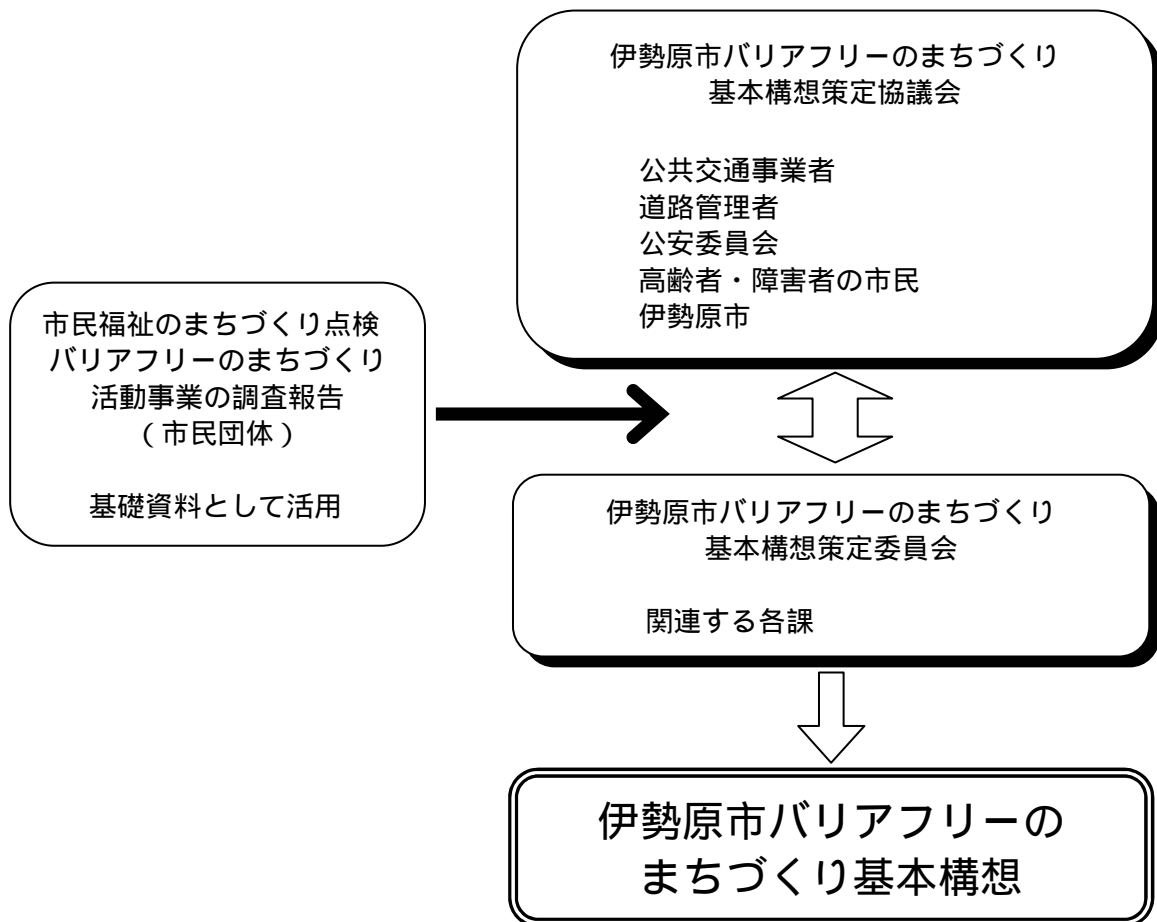
(2) 策定協議会

公共交通事業者、道路管理者、公安委員会、障害者・高齢者の市民から構成される策定協議会を設置し、構想案の検討を行いました。

(3) 策定委員会

バリアフリーの推進のためには関連する各課の横断的な取り組みが必要とされることから、庁内の関連する課で構成する策定委員会を設置し、協議会での意見等を踏まえ、案の検討及び策定を行いました。

図 策定方法と体制



2. 上位・関連計画の整理

2-1 いせはら 21 プラン・伊勢原市新総合行政計画

「いせはら21プラン」・「伊勢原市新総合行政計画」（平成15～19年度）におけるバリアフリー関連施策について整理すると次のようになります。

「いせはら 21 プラン」における将来像と「伊勢原市新総合行政計画」のバリアフリー施策

将来像：明るい暮らし...愛着をもってふるさとと呼べるまち

伊勢原市新総合行政計画の分野別計画

健康で生きがいのあるまちづくり

福祉サービス

【目標】

住み慣れた地域における高齢者や障害者の暮らしを支える地域福祉体制の整備

- ・バリアフリー基本構想の策定
- ・伊勢原駅のバリアフリー化

【障害者保健福祉の推進】

- ・障害者の生活環境の改善
暮らしのバリアフリー化

【地域福祉の推進】

- ・まちのバリアフリー化の推進
鉄道駅及びその周辺を中心市街地をはじめとし、交通機関、道路・公園、公共施設等、まちのバリアフリー化を推進します。

将来像：快適な都市...美しい自然に囲まれた快適な環境のまち

伊勢原市新総合行政計画の分野別計画

暮らしを支える利便性の高いまちづくり

魅力ある都市づくり

【目標】

快適な市民生活を支える魅力ある都市づくりの推進

- ・交通バリアフリー基本構想の策定

【誰にもやさしい都市づくり】

- ・交通バリアフリーの推進

高齢社会を迎え、ノーマライゼーションを基本に、高齢者や障害者等の円滑な移動を確保するため、交通ターミナルを中心に、各種公共施設を取り込んだ交通バリアフリー計画の策定を進め、事業者、管理者、市民団体等と連携し、移動確保の実現を図ります。

- ・ユニバーサルデザインの推進

市民生活の利便性向上を図るため、道路、公園、各種公共施設の整備にあたり、ユニバーサルデザインの導入を進めます。

2 - 2 高齢者保健福祉計画

伊勢原市では、老人福祉法、老人保健法に基づき、平成15年度から平成19年度までを計画期間とする高齢者保健福祉計画を策定しています。計画のバリアフリー関連施策を整理すると次のようになります。

支え合う地域社会づくり

バリアフリーを基本とする住環境の整備

【対応方針】

・やさしいまちづくりの推進

公共施設、公共交通機関、道路、公園等の整備に当たり神奈川県が定めた「神奈川県福祉の街づくり条例」に基づき、障害者や高齢者などが安全に、かつ、快適に生活できるように整備をしていきます。福祉施設や病院などの不特定多数の人が利用する公共的施設の新築等をする者に対しては、本条例の整備基準を遵守するよう指導していくとともに、市民や民間団体が行う「まちづくり点検」を支援し、点検結果を関連する各事業の施策に活かしていきます。

【施策・事業】

・鉄道駅のバリアフリー化対策事業

公共交通機関の中心拠点である市内鉄道駅やその周辺について、高齢者や障害者などが容易に、かつ、安全に利用できるように、車椅子対応型エレベーターや多目的トイレの設置などの駅舎改善に対する支援を行っていきます。

また同時に、快適性や利便性の向上、混雑解消等を図るため南北自由通路の拡幅やエスカレーターの設置についても、駅舎周辺整備と併せ検討していきます。

・バリアフリーのまちづくり事業

高齢者や障害者の視点に立ったまちづくりを進めていく必要があることから、当事者を中心としたチームにより、まちのバリアの点検・調査を行い、市への提言書を作成し、市はその提言書を受けて道路や公共施設のバリアフリーの基本計画等をまとめていきます。

2 - 3 障害者福祉計画

伊勢原市では、障害者基本法に基づき、平成12年度から平成18年度までを計画期間とする障害者福祉基本計画を策定しています。計画のバリアフリー関連施策を整理すると次のようになります。

道路や建物などのバリアフリー

福祉のまちづくりの推進

【今後の取り組み】

- ・普及啓発...神奈川県福祉の街づくり条例の普及啓発
- ・事前協議の推進...民間建築物に対する協力要請
- ・誘導促進策の検討...伊勢原市独自の誘導方策を検討

【重点目標】

- ・市民による「神奈川県福祉のまちづくり点検」の推進
- ・（仮称）バリアフリーのまちづくり宣言の実現

住宅の改善

【今後の取り組み】

- ・ 公営住宅の充実...市営住宅のバリアフリー化の推進

【重点目標】

- ・ 市営住宅のバリアフリー化

交通機関の改善

【今後の取り組み】

- ・ ターミナルの改善
交通バリアフリー法に基づき、鉄道駅等の改善を推進
- ・ 乗物の改良と普及
公共交通機関に対し、障害者への配慮と乗物の改良を要請
公用車に「障害者に優しい車両」を導入

【重点目標】

- ・ 伊勢原駅にエレベーター等の設置
- ・ 愛甲石田駅にエレベーター等の設置
- ・ 路線バスに低床バスの導入拡大

公共施設の改善

【今後の取り組み】

- ・ 道路の改善
幹線道路の新設、改良に併せて、安全な歩道空間の整備促進
- ・ 公園の改善
障害者にも利用しやすい公園に改善
- ・ 建物の改善
公共施設（建物）の改善計画の作成
公共施設のバリアフリー化を順次着手

【重点目標】

- ・ 歩道整備
- ・ 誘導ブロックの改善・補修
- ・ 交差点の改良
- ・ 音声信号機等の整備
- ・ 公共施設整備基準の作成
- ・ 公共施設改善計画の作成と実施

2 - 4 伊勢原市都市マスタープラン

伊勢原市では、都市計画法に基づき、今後の都市づくりの道筋を示す都市マスタープランを定めています。バリアフリー化に関する内容について次のとおり整理します。

都市づくりをすすめるに当たっての基本認識として

社会的弱者からの視点

- ・我が国は、今後、急激な勢いで高齢化、少子化が進行すると予測されており、社会全体の高齢化の進行は、伊勢原市域にも様々な形で、その影響が現れてくることとなります。
今後の道路などの都市施設等の整備に当たっては、歩道の設置やその整備形態など、高齢者などに配慮した事業実施が求められてきます。
- ・これからの地域社会においては、こうした課題解決に向けて、バリアフリーを基本とした施設整備をはじめとする「人にやさしい都市づくり」を進めることが重要であると考えています。

全体構想...都市づくりの目標

安全で、安心した生活がおくれる都市施設整備の推進

- ・都市施設整備を始め、福祉の視点からの都市づくりの推進に努め、ゆとりある歩道や誰もが使える公園など、長寿社会などに対応した施設づくりを進め、日々の生活が、安心しておくれるまちをめざします。

全体構想...都市整備の方向

【都市施設の配置と整備】

都市づくりを進めていくうえで基本となる道路、公園などの都市施設は、

- ・市民生活や経済活動の視点
(都市基盤の確立、利便性の向上を考慮した施設整備)
- ・市民生活の安全性や防災の視点(防災機能を考慮した施設整備)
- ・社会的弱者に配慮した視点(高齢者や障害者に配慮した施設整備)

などにより進めていくことが重要になります。

【公園・緑地】

みどりの配置

- ・高齢者や児童、身体障害者などのレクリエーション需要に対応するため、バリアフリーを基本とした、福祉の視点に配慮した公園・緑地などの整備、配置を進めます。

【市街地整備】

市街地整備の推進

- ・住宅及び住宅地の供給については、官民の適正な役割分担のもとに、良質な住宅、住宅地の創出をめざすとともに、住宅のバリアフリー化に取り組みます。

3 . 伊勢原市の現況と公共施設等の問題点

3 - 1 伊勢原市の概況

(1) 地域の概要

本市は神奈川県ほぼ中央にあり、東京から50km圏、横浜から30km圏に位置しています。

市域は東西が約10.0km、南北が約7.3kmで、面積は55.52km²となっています。

南部を平塚市、西部を秦野市、北東部を厚木市と接しています。

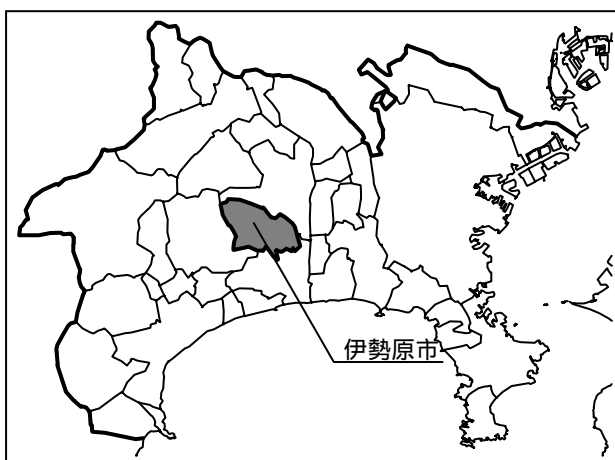
高度経済成長期以降、立地条件の良さや良好な住環境などから人口が急増し、現在では、首都圏の近郊都市として重要な役割を担っています。

市街地は、東西に横断する小田急小田原線や国道246号、東名高速道路を軸とし、伊勢原駅及び愛甲石田駅を中心に形成されています。

総面積の約3分の1が山林原野で、恵まれた自然環境と大山に代表される豊かな観光・レクリエーション資源を有しています。

第二東名や国道246号バイパスなどの広域幹線道路の整備が予定されており、今後も更なる発展が期待されています。

図 伊勢原市位置



(2) 人口

本市の平成15年6月における人口は、100,210人で、男性が、51,322人、女性が48,888人となっています。

昭和40年代には著しい人口の伸びを示しましたが、ここ数年は微増状態で推移しています。

地区別では伊勢原地区が最も多く、次いで成瀬地区となっています。

表 地区別の人口分布状況と推移

	昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		平成15年	
	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)
全人口	70,052	100.0	77,766	100.0	89,567	100.0	98,123	100.0	99,544	100.0	100,210	100.0
伊勢原	25,108	35.8	26,650	34.3	34,032	38.0	36,956	37.7	36,953	37.1	37,086	37.0
大山	1,701	2.4	1,662	2.1	1,648	1.8	1,549	1.6	1,450	1.5	1,425	1.4
高部屋	9,092	13.0	9,892	12.7	10,341	11.5	10,677	10.9	10,533	10.6	10,521	10.5
比々多	8,541	12.2	9,727	12.5	10,888	12.2	12,784	13.0	13,388	13.4	13,614	13.6
成瀬	15,124	21.6	17,776	22.9	23,373	26.1	26,428	26.9	26,949	27.1	27,285	27.2
大田	10,486	15.0	12,059	15.5	9,285	10.4	9,729	9.9	10,271	10.3	10,279	10.3

昭和55～平成12年は国勢調査、平成15年は6月1日現在

3 - 2 . 高齢者、身体障害者の状況

(1) 高齢者の状況

本市の老年人口比率は13.4%（平成15年1月現在）で、県や全国の水準よりは低く推移していますが、高齢化は着実に進行しています。

老年人口は13,419人で、65～74歳の前期高齢者人口は8,060人、75歳以上の後期高齢者人口は5,359人となっています。

今後も、老年人口の増加と年少人口の減少によって高齢化が進み、平成19年度には高齢化率が17.4%に達すると想定されています。

表 老年人口比率の推移の比較 (%)

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成15年
伊勢原市	6.6	7.5	8.2	9.5	12.0	13.4
神奈川県	6.3	7.5	8.8	11.0	13.8	15.1
全国	9.1	10.3	12.0	14.5	17.3	18.7

昭和55～平成12年は国勢調査、平成15年は1月1日現在

(2) 身体障害者の状況

本市の身体障害者は2,205人（平成13年10月現在）で、総人口に占める割合は約2.20%となっています。

身体障害者数は増加傾向にあり、特に肢体不自由と内部障害の増加率が高くなっています。

今後は、重複障害者の増加や障害者の高齢化など「障害の重度化」が進むと考えられます。

表 身体障害者の比率と推移

	昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		平成13年	
	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)
全人口	70,052	100.0	77,766	100.0	89,567	100.0	98,123	100.0	99,544	100.0	100,052	100.0
肢体不自由	587	0.84	697	0.90	835	0.93	1,004	1.02	1,231	1.24	1,254	1.25
視覚障害	162	0.23	173	0.22	185	0.21	210	0.21	194	0.19	199	0.20
聴覚障害	149	0.21	150	0.19	174	0.19	195	0.20	220	0.22	221	0.22
内部障害	55	0.08	97	0.12	207	0.23	333	0.34	452	0.45	490	0.49
言語障害	6	0.01	13	0.02	18	0.02	21	0.02	41	0.04	41	0.04
合計	959	1.37	1,130	1.45	1,419	1.58	1,763	1.80	2,138	2.15	2,205	2.20

各年10月1日現在

3 - 3 . 公共交通の状況

鉄道については、小田急小田原線が東西を結んでおり、市民が利用する駅として、伊勢原駅と愛甲石田駅の2駅があります。

平成13年度における1日当たりの平均的な利用者数は、伊勢原駅で51,567人、愛甲石田駅で47,673人です。

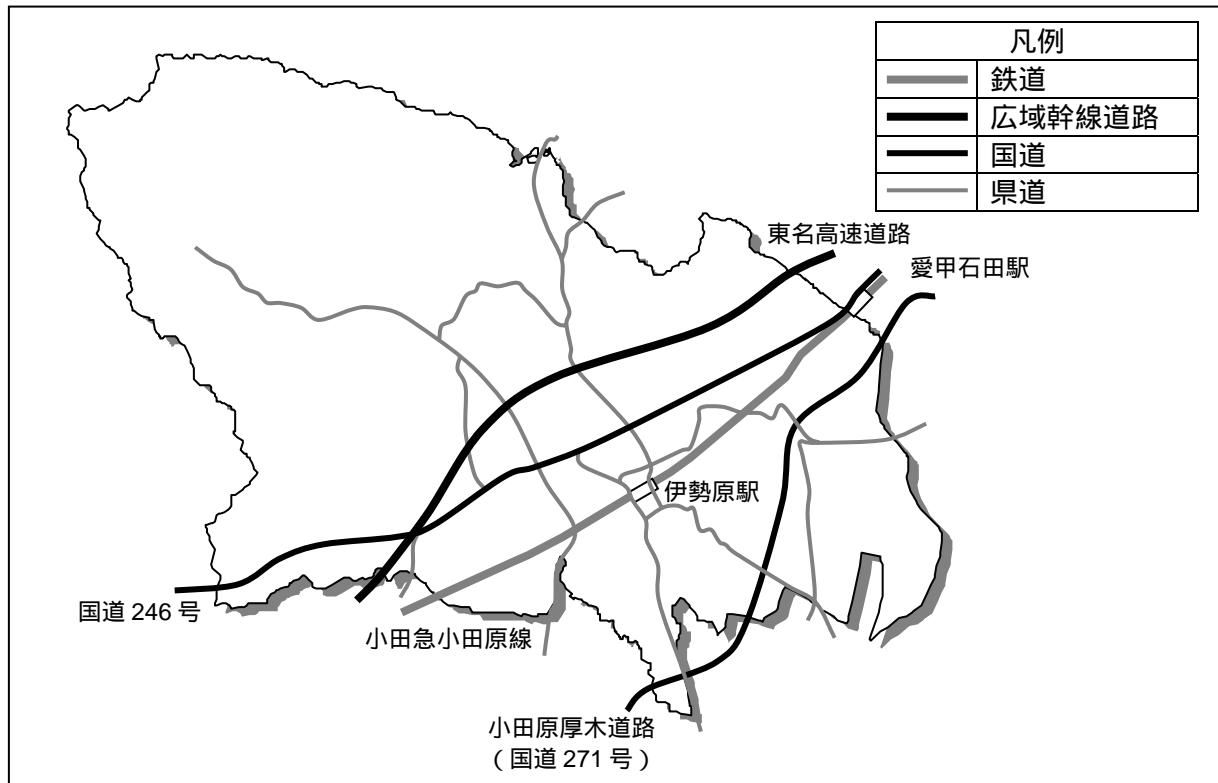
バス路線については、両鉄道駅を中心とした路線網が編成されており、神奈川中央交通株式会社により運行されています。

表 市内鉄道各駅の乗降車人員 (人)

	年間乗車人員	年間降車人員	一日平均		
			乗車人員	降車人員	
伊勢原駅	平成 9年度	10,013,680	9,710,987	27,434	26,605
	平成10年度	9,865,307	9,547,955	27,028	26,159
	平成11年度	9,700,492	9,461,578	26,505	25,852
	平成12年度	9,503,223	9,318,666	26,037	25,531
	平成13年度	9,497,721	9,324,364	26,021	25,546
愛甲石田駅	平成 9年度	8,926,516	8,681,089	24,456	23,783
	平成10年度	8,930,056	8,932,026	24,466	24,471
	平成11年度	8,636,946	8,667,382	23,598	23,681
	平成12年度	8,582,251	8,622,559	23,513	23,623
	平成13年度	8,672,209	8,691,595	23,760	23,813

小田急電鉄株式会社調べ

図 伊勢原市の鉄道及び主要道路



3 - 4 公共施設の現況と問題点

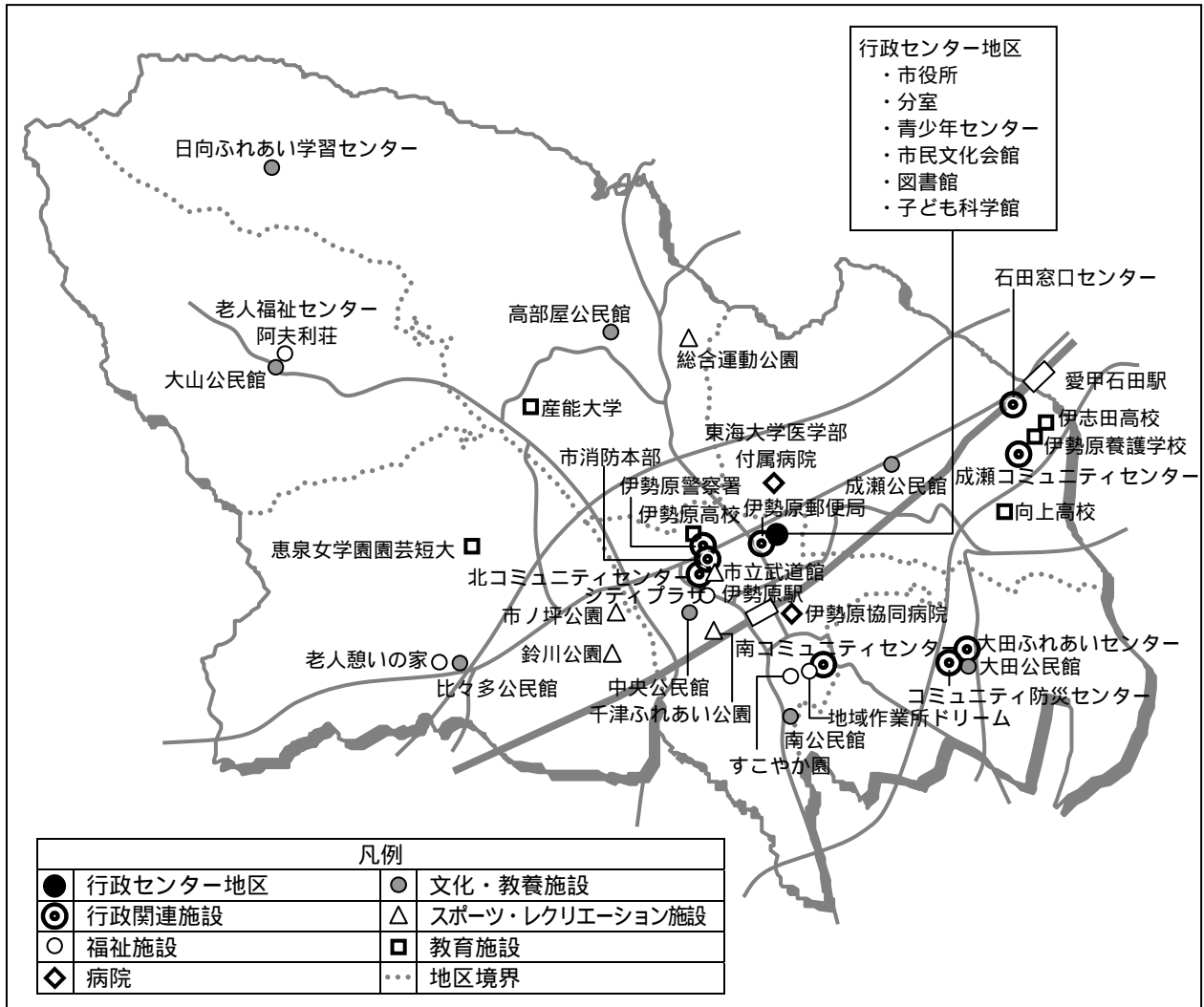
伊勢原市では、平成14年度に「バリアフリーのまちづくり活動事業」として、市民団体「誰もが住みよいまちづくり懇話会」が公共施設及び周辺道路について、問題点、改善点の調査を行い、分析・提言を行っています。この調査結果をもとに、本構想策定に向けての公共施設、周辺道路の問題点及び評価について次のとおり整理します。

(1) 公共施設の分布

本市では、全市的に利用が見込まれる施設が伊勢原駅周辺に集中しており、特に市役所を中心とする一帯は行政センター地区となっています。

さらに、各地区ごとに、公民館やコミュニティセンター等が設置され、地域活動が行われています。

図 市内の主要公共施設分布状況



(2) 公共施設の問題点・評価等

「神奈川県福祉の街づくり条例」における「公共交通機関の施設以外の公共的施設に関する整備基準」（以下県整備基準）で設定された項目をもとに地区ごとに調査を行い、問題点の抽出と評価を行っています。

次にその内容を掲載します。

1) 地区の現状と問題点等

地区ごとの概要と問題点、評価について報告書をもとに整理します。

なお、この報告書に係る調査は平成14年度に実施したもので、この報告書に基づき、既に改善されている箇所もあります。

地区	概要・問題点等
行政センター地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政センター地区は、市役所、図書館・子ども科学館、文化会館等の市民の利用頻度の高い施設が集中するエリア。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ハード・ソフト両面において他の地区よりも一段高い整備水準を求められることになるが、建物の老朽化、構造上の問題等により、対応が遅れている。 バス停「行政センター前」からは、点字誘導ブロックが敷設してあるが、市役所を經由しており、市役所分室、図書館・子ども科学館への誘導状況に若干の不備（点字ブロックが途切れている）がみられる。
伊勢原北地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊勢原市の中心商業地として栄える北地区は、主要地方道平塚伊勢原線、横浜伊勢原線を動脈として、人、物が行き来するエリア。 利用頻度の高い公共施設として中央公民館、シティプラザがあり、双方ともにバリアフリー化が進んでいる。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央公民館、シティプラザともに、駅からの点字誘導はなく、最寄りの交差点、バス停からの点字誘導ブロック敷設のみである。 <p>また、レンガ敷きの歩道は、所々破損がみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千津ふれあい公園には「みんなのトイレ」が設置されている。 <p>丘陵地のため、アクセス、公園内の散策路にアップダウンがある。</p> <p>教育施設（広域避難場所）への誘導状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 中沢中学校周辺は、歩道の整備の遅れているエリアであり、片側だけの歩道、旧式の点字ブロック、排水溝の溝蓋ピッチ3cm等の問題がある。 伊勢原小学校周辺は、歩道の整備状況や最寄りの交差点からの点字誘導ブロックに問題はない。緊急時における広域避難場所としての信頼性は高い。
伊勢原南地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 小田原厚木道路に向かって下り勾配となっており、地形・地質に起因する大小の様々なバリアが抽出されたエリア。 南口から玄関まで点字誘導ブロックが敷設されている障害福祉センター、地域作業所等の福祉施設内部の設備は高い水準を誇っている。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要地方道平塚伊勢原線歩道上の点字ブロックは旧式が多くみられ、張り替えが望まれる。 <p>教育施設（広域避難場所）への誘導状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊勢原駅から続く下り勾配線上にある桜台小学校、伊勢原中学校への誘導状況はその地形がもたらす問題点に集約される。 竹園小学校周辺は、歩道区分が明確でない、横断歩道がペイントされていない、必要なポイントにカーブミラーが設置されていない等、車から歩行者を守る安全対策を欠いている。

地区	概要・問題点等
大田地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 春先から初夏まで「芝桜の道」、「あやめの里」が観光スポットとして賑わいを見せるエリア。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道271号が地区を東西に分断し、高架線による行き来が歩行者の行動範囲を狭めている。歩道区分が明確にされていないところも多い。 <p>教育施設（広域避難場所）への誘導状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 大田小学校の周辺道路状況は、「大田ふれあいセンター」側の歩道が比較的整備されている。しかし「コミュニティ防災センター」側の歩道は歩行者の安全対策や移動制約者への配慮を欠いており、大田小学校へのバリアが多い。
大山地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光スポットとして名高い大山中腹に広がる大山地区。「情緒溢れる景観」と「バリアフリーを目指す住環境改善」の折り合いが最も難しいエリア。 新道分岐点には、市が設置した公衆トイレ「みんなのトイレ」がある。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来者のほとんどが車でのアクセスになるが、市営の第1駐車場には「みんなのトイレ」が設置されていない。設置されている第2駐車場は車の収容台数が45台、日・祝・ピーク時の駐車は困難（車いす対応スペース無し）。 <p>教育施設（広域避難場所）への誘導状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 大山小学校正面へは上り坂。迂回して直接校庭へのアクセスは可能だが、路面の整備状況に難あり。 周辺スクールゾーンは歩行帯を白線で示されているが、明確に区分されていないポイントも多い。
高部屋地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 大山の山麓に広がるエリア。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 「伊勢原総合運動公園」の公共性が高いにもかかわらず2階建ての体育館にエレベーターが設置されていない。 2階に福祉の店「ともしびショップ」、「みんなのトイレ」があるものの、内部からは階段で上がるか、一旦外に出て急勾配の坂道を登り、特設ゲートから入らなければならない。 1階の「みんなのトイレ」は、場所を知らせるマークや表示がない。 <p>教育施設（広域避難場所）への誘導状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 高部屋小学校周辺は片側歩道、ペイントによる歩行区分、歩道なし等、歩行者の安全確保に問題が多い。 旧式の点字ブロックが施設されている交差点がある。 スクールゾーンは平坦だが、小学校へは勾配がある。

地区	概要・問題点等
成瀬地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体として、「地形によるバリア」が数多く抽出されたエリア。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住空間として更なる発展も見込まれ、住環境整備へ向けて迅速な対応が望まれる。 <p>教育施設（広域避難場所）への誘導状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑台小学校・成瀬中学校は高台にあるため、アクセスと歩道の状態に問題が多い。補修を重ね地面の凸凹が増えている。また、補修の必要なところが放置されている例がみられる。 各学校とも、最寄りのバス停、交差点からの点字誘導ブロックが敷設されていない。
比々多地区	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 山麓エリア。国道246号の歩道は段階的な整備がなされている。 <p>問題点等</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住地や公共施設への経路は様々な問題（階段、段差、車止め）がある。 <p>教育施設（広域避難場所）への誘導状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 山王中学校正門前の歩道は、モデル的整備（点字、舗装等）がなされている。しかし、途中で旧態依然の歩道になっている。 比々多小学校は平地にあり、アクセスに問題はないが、舗装状態、排水溝の溝蓋等、整備状況に問題がある。

公共施設の評価基準

				×
車いす対応 駐車スペース	利便性、設置基準共に優れているもの。	1台以上の駐車スペースあり。	設置されていないが駐車可能。	無し。
玄関までの点字誘導	最寄りの駅、バス停からの誘導。	最寄りの交差点からの誘導。	正面歩道からの誘導。	点字誘導なし。
玄関	自動扉（有効幅員120cm以上）平坦。	自動・段差なし（スロープあり）。	段差、扉の開閉等に難あり。	階段のみ。
横移動	概ね廊下の有効幅員120cm以上。	各所（室）への移動に問題なし。	様々な備品により移動のバリアあり。	車いす利用者、視覚障害者への配慮を欠いている。
縦移動	エレベーターあり。	階段の両側手すり、踏面の鮮明さ等。	安全性への配慮に欠けている。	/
非常口	扉の有効幅90cm。避難場所への円滑な移動。	段差がなく、避難場所への概ね円滑な移動。	段差、扉の開閉難、扉周辺の備品によるバリア等。	様々なバリアにより、非常口としては認められない。
みんなの トイレ	自動扉、フラッシュバルブの併設。	概ね良好な仕様。	障害種によっては使えないタイプ。	無し。

評価

表 公共施設の評価一覧

地区		車いす対応 駐車スペース	玄関までの点 字誘導	玄関	館内の 横移動	館内の 縦移動	非常口	みんな の トイレ
行政センター	市役所							
	分室							
	青少年センター							
	市民文化会館							
	図書館							
	子ども科学館							
伊勢原北	シティプラザ							
	中央公民館							
	千津ふれあい公園	×	×					
	北コミュニティセンター	×	×					
伊勢原南	南公民館	×	×					
	南コミュニティセンター							
	すこやか園							
	地域作業所ドリーム							
大田	大田公民館	×	×					
	大田ふれあいセンター							
	あやめの里	×	×					
	芝桜の道	×	×					
	コミュニティ防災センター		×					
大山	老人福祉センター 阿夫利荘	×	×					
	大山公民館	×	×				×	
高部屋	高部屋公民館	×	×					
	総合運動公園							
	日向ふれあい 学習センター	×	×					
成瀬	成瀬公民館	×	×					
	成瀬コミュニティ センター	×						
比々多	比々多公民館	×	×				×	
	老人憩いの家	×	×	×	×		×	×
	鈴川公園	×	×					×

2) 道路の現況と問題点

指摘された問題点・改善点を以下に掲載します。

なお、この指摘に係る調査は平成14年度に実施したもので、この指摘に基づき、既に改善されている箇所もあります。

表 道路の問題点・改善点

項目	内容	場所
車止め	交差点での巻き込み防止のために設置された車止めではなく、歩道内の駐車違反を阻止するための車止めが乱立する。	行政センター地区 国道246号「トヨタビスタ神奈川」前 伊勢原北地区 「OKストアー」前
歩道区分なし	ラインによる歩行者通行帯がない、横断歩道がペイントされているのに歩道がない。	行政センター地区 主要地方道 横浜伊勢原線（池端交差点） 伊勢原南地区 桜台小学校周辺スクールゾーン
路面 アスファルト	地盤が緩く、隆起によってできる凸凹・ひび割れ。	成瀬地区 緑台小学校周辺スクールゾーン 高部屋地区 県道603号 比々多地区 比々多小学校スクールゾーン
路面 レンガ・石畳	レンガ敷きや石畳の歩道はその景観の良さで好まれるものの、地面の隆起に影響されやすい。	伊勢原北地区 主要地方道 平塚伊勢原線（レンガ） 行政センター地区 主要地方道 横浜伊勢原線、NTT前（石畳） 図書館周辺
点字ブロック 旧タイプの敷設	車道側に誘導ブロックが敷設された旧式がみられる。	高部屋地区 高部屋小学校交差点付近 伊勢原北地区 中沢中学校前バス停交差点 成瀬地区 道了尊バス停付近交差点
点字ブロック 様々な形態・敷設による弊害	路面に埋め込まれた点字ブロックは、地面の隆起や歩行者、通行車の影響を受けやすい。また、統一された基準で敷設することが望ましい。	比々多地区 国道246号 （よろずや桜坂店前） 伊勢原南地区 主要地方道 平塚・伊勢原線 横断歩道のペイントがないのに、線状の誘導ブロックが敷設されている。

項目	内容	場所
点字ブロック 破損・摩耗	欠落、摩耗等、敷設年数により消耗していく。破損の激しい点字ブロックは、視覚障害の方々には、砂利や小石と誤認されやすい。これらは比較的、商業地や行政センター地区等、往来の激しい地区にみられる。	行政センター地区 青少年センター前 伊勢原南地区 障害福祉センターへの誘導ブロック 平塚伊勢原線沿いセブンイレブン裏等 伊勢原北地区 中央公民館周辺
段差・ 切下げ	多くの人々が歩道の段差を不便なものとして認識している。十字路にさしかかったとき、横断歩道を渡りたいとき、3cmの段差でさえバリアと感じてしまうのは車いす利用者だけではない。	成瀬地区 成瀬小学校周辺。横断歩道がペイントされているが、歩道が切下げられていない。 (段差9cm)
グレーチング	公共施設周辺は1cm以下の編み目幅が使用されているものの、一般道にみられる幅は3cmのものが多く、車椅子、ベビーカー、ハイヒールの踵がはまるのに十分な隙間である。	伊勢原北地区 北コミュニティセンター前 比々多地区 比々多小学校周辺 他に市内各所にあり